

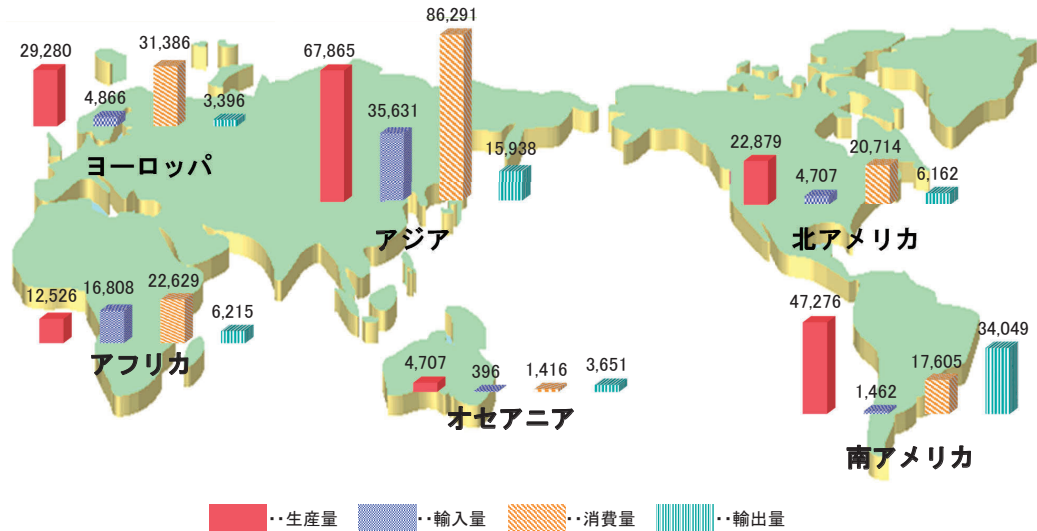
砂糖の国際需給

調査情報部 水野 崇、塩原 百合子

1. 世界の砂糖需給（2020年9月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2020/21年度予測値）

（千トン（粗糖換算））



資料：英国の民間調査会社LMC International [Quarterly Statistical Update, September 2020]
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。
 注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

LMC International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）の2020年9月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2020/21砂糖年度（10月～翌9月）の世界の砂糖生産量は、1億8453万トン（粗糖換算（以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算）、前年度比2.1%増）とわずかに増加すると見込まれる（表1）。アジアや北アメリカは前年度を上回る一方、ヨーロッパでは主要産地であるフランスやロシアの減産の影響により前年度を下回る見通しである。

同年度の世界の砂糖消費量は、先行き不透明な新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関しては、

感染拡大の抑制を目的とした都市封鎖が世界中で緩和されつつあり、以前の厳しいレベルに戻ることはないとの予測から、1億8004万トン（同1.3%増）とわずかに増加すると見込んでいる。現時点では、すべての地域で前年度から消費量が増加すると見込まれるものの、今後の都市封鎖の実施状況によっては消費量を下方修正する可能性がある。

全体を見ると、2020/21年度の期末在庫率は前年度比1.2ポイント減の46.5%と見込まれ、砂糖の需給は前年度からわずかに引き締まるものの、高い水準が維持される見通しである。なお、地域別の砂糖需給の予測値は、図1の通りである。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン〈粗糖換算〉、%)

| 年度 | 期首在庫量 | 生産量 | 輸入量 | 消費量 | 輸出量 | 期末在庫量 | 期末在庫率 |
|------------------------|--------|---------|--------|---------|--------|--------|-------|
| 1990/91 | 31,180 | 114,134 | 26,729 | 106,623 | 28,254 | 37,165 | 34.9 |
| 1995/96 | 44,812 | 122,392 | 33,811 | 116,115 | 36,615 | 48,284 | 41.6 |
| 2000/01 | 64,678 | 130,768 | 38,567 | 131,079 | 40,945 | 61,989 | 47.3 |
| 2005/06 | 57,700 | 151,186 | 47,535 | 150,003 | 50,013 | 56,404 | 37.6 |
| 2010/11 | 50,821 | 166,769 | 54,668 | 165,847 | 58,206 | 48,206 | 29.1 |
| 2015/16 | 73,774 | 175,955 | 67,776 | 178,680 | 69,077 | 69,748 | 39.0 |
| 2016/17 | 69,748 | 180,387 | 70,759 | 181,337 | 71,288 | 68,268 | 37.6 |
| 2017/18 | 68,268 | 195,704 | 65,880 | 180,481 | 67,716 | 81,655 | 45.2 |
| 2018/19 | 81,655 | 186,749 | 61,167 | 183,180 | 61,746 | 84,646 | 46.2 |
| 2019/20 | 84,646 | 180,721 | 67,265 | 177,675 | 70,186 | 84,771 | 47.7 |
| 2020/21 (2020年9月予測) | 84,771 | 184,534 | 63,871 | 180,040 | 69,411 | 83,725 | 46.5 |

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, September 2020」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

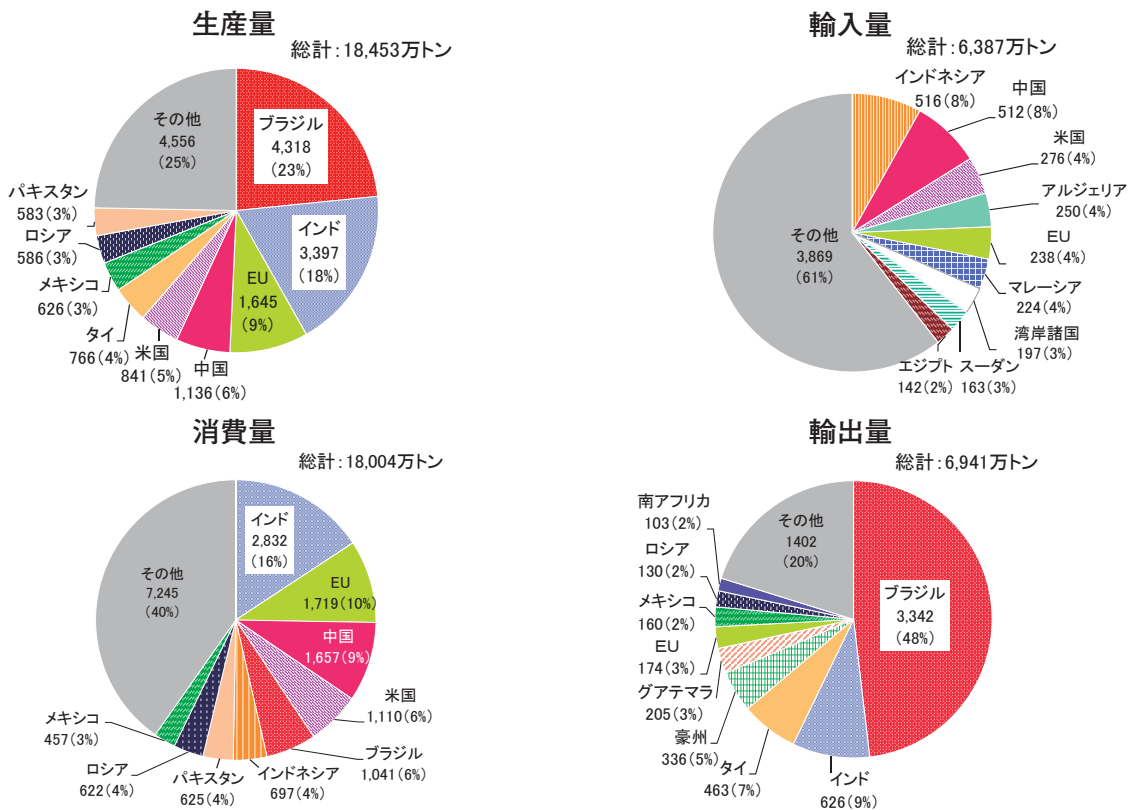
注2：2018/19年度以降は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

2. 主要国の砂糖需給（2020年9月時点予測）

図2 主要国の生産量、輸入量、消費量、輸出量（2020/21年度）



資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, September 2020」

注1：主要国の年度は、各国の砂糖年度。

注2：主要国とその他を表示。

注3：「その他」は総計から主要国の計を差し引いた数値。

注4：端数処理の関係で内訳の合計が総計と一致しないまたは100%にならない場合がある。

注5：EUは、英国を除く27カ国。また、湾岸諸国とは、アラブ首長国連邦、バーレーン、カタール、オマーンの4カ国を指す。

【生産量】

国別に見ると、ブラジルは、乾燥した気候の下、サトウキビの収穫が順調に進んでいることや、製糖業者におけるエタノールから砂糖へ生産を切り替える動きを背景に、4318万トン（前年度比35.8%増）と大幅に増加し、世界の砂糖生産量の約2割を占めると見込まれる（図2）。

インドは、雨季の降雨に恵まれてサトウキビが順調に生育し、3397万トン（同15.4%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。

EUにおいては、てん菜生産量第1位のフランスで干ばつと萎黄病いおうびょうの流行を背景とした減産が予測されており、EU全体の生産量は1645万トン（同3.1%減）とやや減少すると見込まれる。

【輸入量】

国別に見ると、インドネシアは、砂糖生産量の不足分を輸入で補っていることから、国内の減産に伴い516万トン（前年度比10.3%増）とかなりの程度増加すると見込まれる。

他方、中国は、砂糖の国内在庫量が積み上がっており、輸入糖の需要が低下すると予測されるため、512万トン（同15.3%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。

【消費量】

国別に見ると、インドは、個人消費が堅調に推移していることを踏まえ、2832万トン（前年度比4.9%増）とやや増加すると見込まれる。長らく世界の砂糖需要をけん引してきた中国も、1657万トン（同4.9%増）とやや増加すると見込まれる。一方インドネシアは、COVID-19の感染拡大防止のために都市封鎖が実施されたことを受けて、697万トン（同5.1%減）とやや減少すると見込まれる。

EUは、1719万トン（同1.6%増）とわずかに増加すると見込まれる。

【輸出量】

国別に見ると、ブラジルは、エタノール需要の低下やレアル安が砂糖輸出への意欲を刺激し、3342万トン（前年度比64.4%増）と大幅に増加し、輸出量全体の5割弱を占めると見込まれる。タイは、砂糖生産量の2年連続の落ち込みと輸出に仕向けられる国内在庫の減少に伴い、463万トン（同43.1%減）と大幅に減少し、第2位から第3位に後退する見通しである。

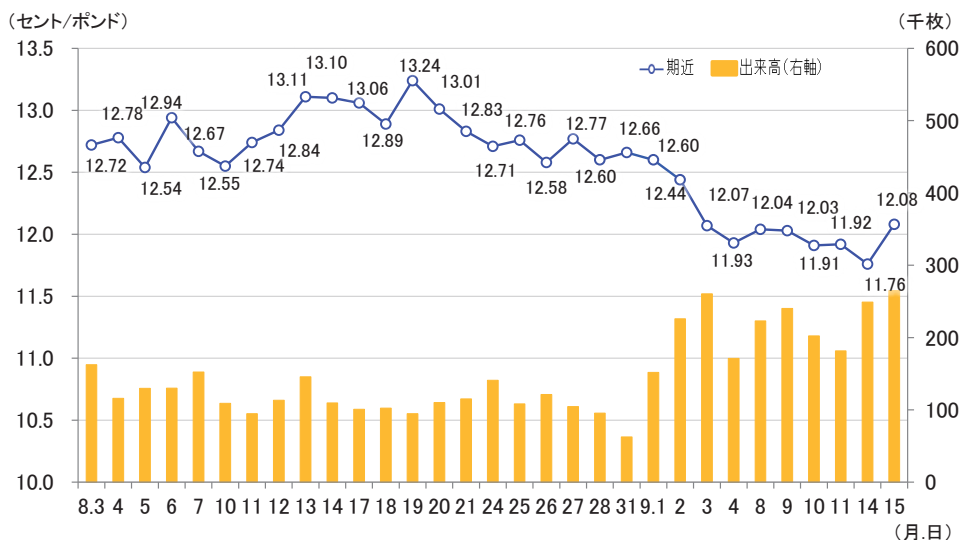
一方、インドは、2019/20年度は在庫量が多かったことから輸出が好調だったが、その反動から2020/21年度は一定の在庫量を確保すると予測されることから、626万トン（同18.8%減）と大幅に減少するものの、第2位に浮上する見通しである。

3. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き (8/3 ~ 9/15)

～8月中旬に13セント台まで上昇も、9月中旬には11セント台まで下落～

図3 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所 (ICE)
注：期近10月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場の2020年8月の推移を見ると（10月限）、3日は原油価格の続伸に伴い、1ポンド当たり12.72セント^(注1)まで上昇した。5日は、タイで週後半に降雨が予報され、サトウキビの生育が促進されると見込まれたことで、同12.54セントに下落したものの、6日には、2020/21年度の世界の砂糖需給がひっ迫するとの見方が市場に広がり、同12.94セントと5カ月ぶりの高値を付けた。10日は、タイで8月および9月の降雨量が平均以上と予測されたことなどから、同12.55セントに下落した。11日は、ブラジルリアル高^(注2)の影響を受けて同12.74セントと反発した。13日は、中国におけるブラジル産糖の需要の増加に引きずられ上昇し、同13.11セントと2020年3月以来の13セント台に乗せた。17日は、ブラジルリアルが対ドルで急激に下落したことから同13.06セントまで値を下げた。18日には原油価格

の下落^(注3)によりブラジルでサトウキビがエタノール生産よりも砂糖生産に仕向けられるとの見方が強まり同12.89セントまで急激に下落した。19日には中国からの強い砂糖の輸入需要と、降雨があるにもかかわらず、それ以前の干ばつの影響でタイのサトウキビ収穫量が減少するという予測から、同13.24セントまで反発した。しかし、20日にはブラジル国家食糧供給公社 (CONAB) が、同国の砂糖生産量を、2020年5月時点から11%増と予測したことを受けて、同13.01セントと下落した。26日にはブラジルサトウキビ産業協会 (UNICA) が同国中南部の砂糖生産量が前年度比で急増すると発表したことを受けて同12.58セントまで値を下げて、2週間ぶりの安値を付けた。27日にはブラジルリアルが対ドルで上昇したことを受け、同12.77セントに反転したものの、28日にはブラジルの砂糖生産量の増加が見込まれることなどから、同

12.60セントと値を下げた。

9月に入り、1日には国際砂糖機関（ISO）が2020/21年度の世界の砂糖生産量が増加すると予測したことを受け、同12.60セントまで下落した。さらに、4日には、原油価格が安値を付けたことでエタノール価格も下落し、同11.93セントまで急落して、6週間ぶりに11セント台の安値を付けた。8日にはショートポジションをカバーするために買い戻され、同12.04セントまで上昇した。9日にはブラジルのエタノール需要の低迷が懸念され、砂糖の供給を押し上げると見込まれて下落して同12.03セントを付けた。10日にはUNICAがブラジルの旺盛な砂糖生産の見通しを示したことなどから、同11.91セントまで値を下げ、さらに、14日には、インドの雨季において平年より雨量が多かったことが発表され、サトウキビの収量が増えるとの予測か

ら同11.76セントまで下落した。しかし、15日には、ブラジルレアルが対ドルで6週間ぶりの高値をつけたことなどから同12.08セントと反発した。

（注1）1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

（注2）粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが高くなると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が弱まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が低下すれば、需給のひっ迫につながることから、価格を押し上げる方向に作用する。

（注3）一般に、原油価格が下落すると、石油の代替（補填）燃料であるバイオエタノールの需要も低下する。バイオエタノールの需要が低下すると、その原料作物（サトウキビ、てん菜、トウモロコシ、キャッサバなど）のバイオエタノール生産への仕向けが減る一方、それらから生産される食品（サトウキビの場合は砂糖）の生産・供給が増えることが想定される。食品用途仕向けの度合いが大きくなるほど需給が緩和し、当該食品の価格を押し下げる方向に作用する。

4. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2020年9月時点予測）

本稿中の為替レートは2020年8月末日TTS相場の値であり、1インドルピー=1.6円である。

ブラジル

2020/21年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：864万ha（前年度同）

生産量：6億4600万トン（前年度比0.6%増）

【砂糖（甘しゃ糖）】

生産量：4318万トン（同35.8%増）

輸出量：3342万トン（同64.4%増）

2020/21年度、砂糖生産量、輸出量ともに大幅に増加する見込み

2020/21年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、原油の国際価格の動きに不安定さが見られ、バイオエタノール需要にも不透明感があるものの、バイオ燃料など再生可能エネルギーの生産・利用の促進を図るブラジルの国家政策「RenovaBio」の本格始動が生産意欲を後押しする可能性があるこ

とも踏まえ、864万ヘクタール（前年度同）と横ばいで推移すると見込まれる（表2）。サトウキビ生産量は、生育期間を通じて天候がおおむね良好で生育が順調であることから、6億4600万トン（前年度比0.6%増）とわずかに増加すると見込まれる。

一方で砂糖生産量は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）によるバイオエタノール需要の不透明感を背景に、多くの製糖業者が砂糖生産に回帰す

る動きが見られることから、4318万トン（同35.8%増）と大幅に増加すると見込まれる。この予測の下、ブラジル通貨リアルが米ドルに対して安値圏で推移することで輸出意欲が向上し、輸出量は3342万トン（同64.4%増）と大幅に増加すると見込まれる。

米国産エタノールの輸入について、無税枠を90日間に限り再設

ブラジル外務省は9月11日、8月末で期限切れとなった米国産エタノールの無税輸入枠を、9月14日から90日間に限り再度設けることを発表した。この措置により、1億8750万リットルのエタノールが無税で輸入できるようになる。同省による

と、この期間中に、米国政府とブラジル政府はエタノールや砂糖、トウモロコシといった商品の市場アクセスの改善などについて、相互が利益を得られるような合意を目的とした協議を行うとしている。現地報道によると、ブラジルのサトウキビ産業関係者は今回開かれる協議に注目しており、UNICAの代表は「ブラジル外務相が、米国への砂糖輸出について良い合意を得られることを期待している」と述べている。

なお、米国産エタノールの無税枠をめぐる経緯については、『砂糖類・でん粉情報』2020年9月号「エタノールの輸入関税をめぐりトランプ政権から圧力」(https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002293.html)も参照されたい。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

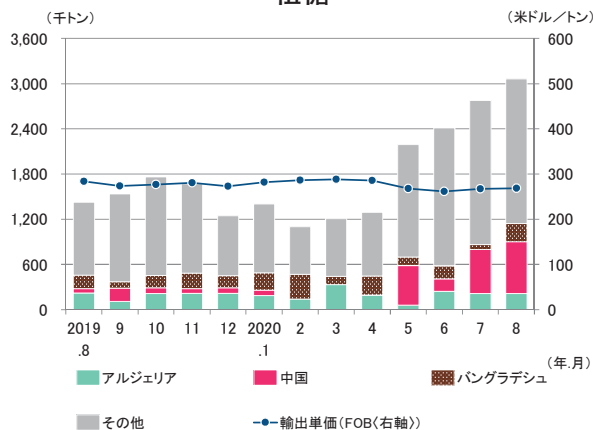
| 年度 | 2017/18 | 2018/19 | 2019/20 | 2020/21 (8月予測) | 2020/21 (9月予測) | 前年度比 (増減率) | |
|----------|---------|---------|---------|-------------------|-------------------|---------------|----------|
| 収穫面積 | 8,617 | 8,649 | 8,645 | 8,642 | 8,642 | ▲ 0.0 | |
| サトウキビ生産量 | 641,066 | 620,832 | 642,219 | 646,000 | 646,000 | 0.6 | |
| 砂糖 | 生産量 | 41,517 | 31,225 | 31,804 | 42,866 | 43,183 | 35.8 |
| | 輸入量 | 2 | 3 | 2 | 3 | 3 | 28.4 |
| | 消費量 | 10,852 | 10,635 | 10,612 | 10,413 | 10,413 | ▲ 1.9 |
| | 輸出量 | 31,026 | 21,017 | 20,321 | 33,099 | 33,415 | 64.4 |
| | 期末在庫量 | 663 | 239 | 1,113 | 470 | 470 | ▲ 57.7 |
| | 期末在庫率 | 1.6 | 0.8 | 3.6 | 1.1 | 1.1 | 2.5ポイント減 |

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, September 2020」

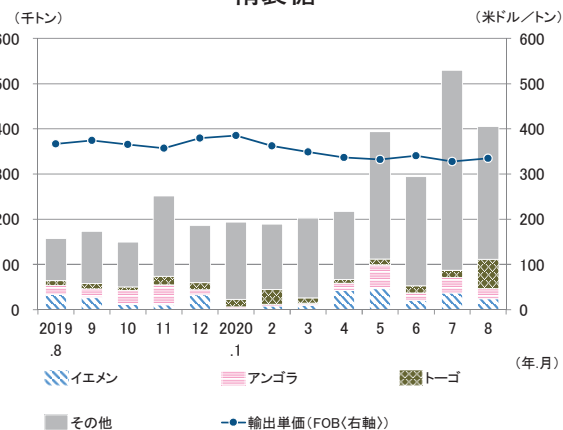
注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移

粗糖



精製糖



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。

インド

2020/21年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：494万ha（前年度比7.1%増）

生産量：4億163万トン（同13.9%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：3397万トン（同15.4%増）

輸出量：626万トン（同18.8%減）

2020/21年度、砂糖生産量はかなり大きく増加し、輸出量は大幅に減少する見込み

2020/21年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、豪雨による大規模な圃場の浸水被害に見舞われた昨年度からの反動で、494万ヘクタール（前年度比7.1%増）とかなりの程度増加すると見込まれる。サトウキビの主産地であるマハラシュトラ州では、年間降雨量が集中するモンスーン期（6～9月）における降雨が順調であることから、ダムの水位の回復により、サトウキビ生産量は4億163万トン（同13.9%増）とかなり大きく増加すると見込まれる（表3）。

砂糖生産量は3397万トン（同15.4%増）とかなり大きく増加すると見込まれる。2019/20年度は、在庫量が多かったことから輸出が好調だったが、その反動から2020/21年度は一定の在庫量を確保するため、輸出量は、626万トン（同18.8%減）と大幅に減少すると見込まれている。

マハラシュトラ州のサトウキビの圃場で食害が発生

主産地マハラシュトラ州のサトウキビの圃場で、植物の根を食い荒らすコガネムシの幼虫（ホワイトグラブ）による食害^{（注1）}が発生した。これにより、同州プネー地区だけで約3000エーカー（1215ヘクタール^{（注2）}）のサトウキビが被害を受け、この食害は周辺地域にも広がっていると、9月7日付けの現地報道が伝えた。現地専門家によると、対コガネムシ用の農薬は市場に十分出回っているものの、農

家が適切なpHの水で希釈しないことから、効果が十分に発現していない状況にあると述べている。

同州では、この6年間で、被害範囲が拡大している。2016/17年度には、同州南部および中部のサトウキビ圃場で、それぞれ17%、41%以上が食害の影響を受け、大幅な収量の減少につながった。以前は、サトウキビや落花生を中心に被害が発生していたが、現在では大豆、綿花、ウコンなどの作物も食害を受けている。

（注1）食害により、葉が黄色く変色したり、しおれたりしてしまい、最終的には立ち枯れなどの被害を引き起こすとされる。害虫は地中にいるため、被害が出始めて初めて、その食害が判明する。

（注2）1エーカー=0.405ヘクタール。

2020/21年度のサトウキビの公正収益価格、2年ぶりに引き上げ

インドの政策決定機関である内閣経済対策委員会（CCEA）は8月19日、2020/21年度におけるサトウキビの公正収益価格（FRP）^{（注）}を前年度から100キログラム当たり10ルピー（16円）引き上げ、同285ルピー（456円、基準糖度10%）とすることを発表した。FRPの引き上げは2年ぶりとなる。糖度が10%より高い場合、0.1%上昇するごとに同2.85ルピー（5円）が上乘せされる。一方、糖度が10%を下回る場合は、0.1%の低下に応じて同額が引かれるものの、糖度が9.5%以下の場合、FRPは同270.75ルピー（433円）に固定される。

（注）砂糖の生産コストなどを基に政府が算出する価格で、サトウキビを同価格より安く買い取ることを禁止されている。

表3 インドの砂糖需給の推移

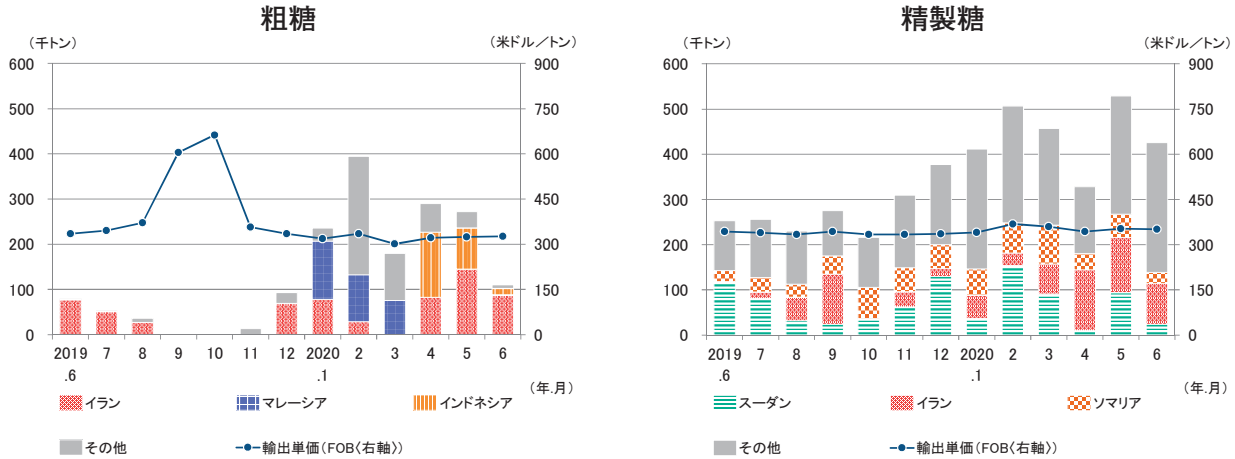
(単位：千ha、千トン、%)

| 年度 | 2017/18 | 2018/19 | 2019/20 | 2020/21 (9月予測) | 前年度比 (増減率) | |
|----------|---------|---------|---------|-------------------|---------------|----------|
| 収穫面積 | 4,826 | 5,148 | 4,611 | 4,938 | 7.1 | |
| サトウキビ生産量 | 410,221 | 411,316 | 352,615 | 401,634 | 13.9 | |
| 砂糖 | 生産量 | 35,043 | 35,798 | 29,437 | 33,965 | 15.4 |
| | 輸入量 | 2,308 | 664 | 1,694 | 1,300 | ▲23.3 |
| | 消費量 | 27,421 | 27,540 | 27,007 | 28,322 | 4.9 |
| | 輸出量 | 2,361 | 5,504 | 7,714 | 6,264 | ▲18.8 |
| | 期末在庫量 | 11,522 | 14,940 | 11,350 | 12,030 | 6.0 |
| | 期末在庫率 | 38.7 | 45.2 | 32.7 | 34.8 | 2.1ポイント増 |

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, September 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3カ国を表示。

中国

2020/21年度(10月～翌9月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：118万ha(前年度比0.6%増)

生産量：7480万トン(同0.4%増)

【てん菜】

収穫面積：23万ha(同7.8%増)

生産量：1145万トン(同5.1%増)

【砂糖(甘しゅ糖およびてん菜糖)】

生産量：1136万トン(同0.9%増)

輸入量：512万トン(同15.3%減)

2020/21年度、輸入量はかなり大きく減少する見込み

2020/21年度(10月～翌9月)のサトウキビの収穫面積は118万ヘクタール(前年度比0.6%増)とわずかに増加すると見込まれる。7月の干ばつに

より停滞していたサトウキビの生育状況は、8月には2つの台風によりもたらされた降雨によって雨量が増加し、回復の兆しが見られることから、サトウキビ生産量は7480万トン(同0.4%増)とわずかに増加すると見込まれる(表4)。

内モンゴル自治区において、てん菜の買取価格が引き上げられたことから、生産者が作付面積を拡大し、収穫面積は23万ヘクタール（同7.8%増）とかなりの程度増加し、てん菜生産量は1145万トン（同5.1%増）とやや増加すると見込まれる。

原料の増産に伴い、砂糖生産量は1136万トン（同0.9%増）とわずかに増加すると見込まれる。砂糖の国内在庫量が積み上がっており、輸入糖の需要が低下すると予測されるため、輸入量は512万トン（同15.3%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。

ブラジル産粗糖の輸入量が大幅に増加

Global Trade Atlasのデータによると、世界最大の粗糖輸出国であるブラジルの8月の粗糖輸出量は307万トン（前年度比2.1倍）で、このうち22%が中国向けであった。このペースでブラジルからの輸出が続けば、中国はブラジルにとって最大の粗糖輸出先国としての地位を回復することになる。

ブラジルの大手コンサルティング会社によると、中国は砂糖への追加関税を撤廃^(注)した後、ブラジ

ルから粗糖を大量に輸入しており、今後もこの傾向が続くと期待感から、ニューヨークの砂糖先物市場の価格は、4月下旬の安値から約35%反発した。また同社は、中国当局が今後数カ月間で210万トンの追加輸入を許可する可能性がある、と述べている。また、別の砂糖業界関係者は、関税撤廃の効果として、中国は2020年に粗糖と精製糖を合わせて500万トン以上を輸入すると予想している。

UNICAが公表したデータによると、2020年4月～8月までのブラジルの中国向け砂糖輸出量は198万トンで、すでに2019/20年度の輸出量を上回っている。

(注) 中国では、輸入糖について関税割当を設けており、年間195万トンの関税割当枠分には15%の関税が課せられ、割当枠外の関税は50%となっていた。しかし、中国政府は2017年5月、砂糖の輸入品が国内の砂糖産業に損害を及ぼしているとして「セーフガード措置」を発動し、割当枠外の関税50%に追加関税を上乗せする措置を2020年5月21日まで講じていた。

表4 中国の砂糖需給の推移

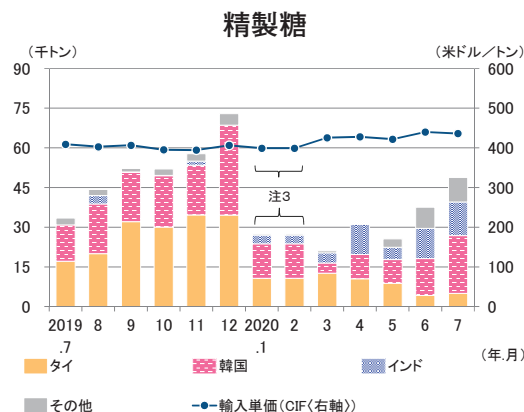
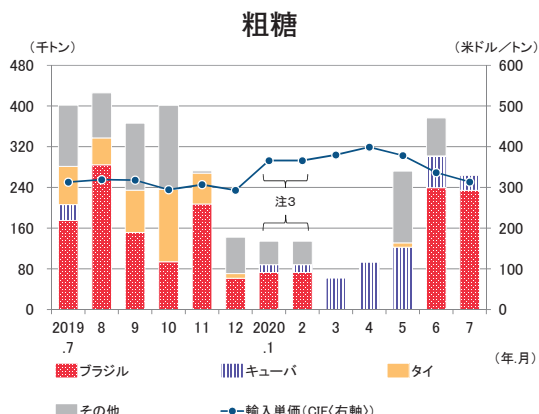
(単位：千ha、千トン、%)

| 年度 | 2017/18 | 2018/19 | 2019/20 | 2020/21 (9月予測) | 前年度比 (増減率) | |
|-----------|---------|---------|---------|-------------------|---------------|----------|
| サトウキビ収穫面積 | 1,231 | 1,219 | 1,176 | 1,183 | 0.6 | |
| サトウキビ生産量 | 76,780 | 78,590 | 74,490 | 74,800 | 0.4 | |
| てん菜収穫面積 | 186 | 243 | 213 | 229 | 7.8 | |
| てん菜生産量 | 9,590 | 11,670 | 10,900 | 11,451 | 5.1 | |
| 砂糖 | 生産量 | 11,147 | 11,640 | 11,249 | 11,355 | 0.9 |
| | 輸入量 | 6,089 | 5,035 | 6,042 | 5,118 | ▲ 15.3 |
| | 消費量 | 16,414 | 16,522 | 15,796 | 16,565 | 4.9 |
| | 輸出量 | 182 | 210 | 196 | 203 | 3.6 |
| | 期末在庫量 | 11,329 | 11,271 | 12,570 | 12,274 | ▲ 2.4 |
| | 期末在庫率 | 68.3 | 67.4 | 78.6 | 73.2 | 5.4ポイント減 |

資料：LMC International [Monthly Sugar Information in Major Countries, September 2020]

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸入量および輸入単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量（累計）上位3カ国を表示。

注3：2020年1、2月の数値は、中国海関総署（日本の税関に相当する組織）が公表した1～2月の合計値を等分した。

E U

2020/21年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：148万ha（前年度比2.6%減）

生産量：1億245万トン（同4.7%減）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1645万トン（同3.1%減）

輸出量：174万トン（同6.8%減）

2020/21年度の輸出量は、かなりの程度減少する見込み

2020/21年度（10月～翌9月）のてん菜の収穫面積は148万ヘクタール（前年度比2.6%減）とわずかに減少すると見込まれる（表5）。てん菜生産量は、7月の深刻な干ばつに見舞われた上、8月の降雨が少なかったことから1億245万トン（同4.7%減）とやや減少すると見込まれる。

EU最大の砂糖生産国フランスでの長引く干ばつ、^{いおう}萎黄病などが響き、砂糖生産量は1645万トン（同3.1%減）とやや減少すると見込まれる。輸出量は、生産量が消費量を下回ると予想されることから、174万トン（同6.8%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。

フランス、てん菜の単収が5カ年平均から15%下回る可能性

フランスのてん菜栽培技術研究協会（ARTB）の8月24日時点のてん菜生育調査によると、2020/21年度のてん菜の単収は1ヘクタール当たり74トン未満となり、前年度の同85.2トンを13%も下回り、過去5カ年平均の同87トン（糖度16%）との比較では15%も下回る可能性がある、現地報道が報じた。この歴史的な減少の主な要因として、萎黄病と干ばつが挙げられている。

同日時点のてん菜の平均重量は548グラムと、この時期の5カ年平均657グラムを16.6%下回った。

ARTBは、てん菜の生育状況は地域によって大きく異なると指摘しており、一部の地域では、てん菜の生育が改善されているものの、実際の単収などは、今後数週間の気象条件に左右されるとしている。

表5 EUの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

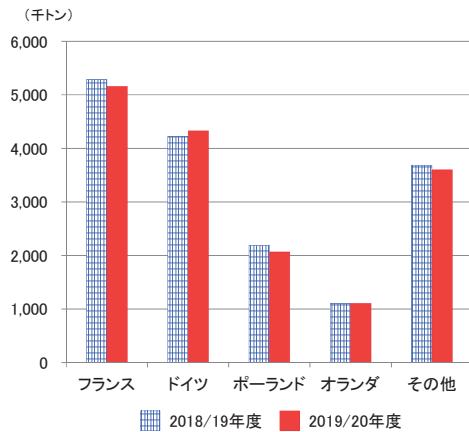
| 年度 | 2017/18 | 2018/19 | 2019/20 | 2020/21 (9月予測) | 前年度比 (増減率) | |
|--------|---------|---------|---------|-------------------|---------------|----------|
| 収穫面積 | 1,624 | 1,599 | 1,517 | 1,477 | ▲ 2.6 | |
| てん菜生産量 | 130,930 | 103,997 | 107,488 | 102,447 | ▲ 4.7 | |
| 砂糖 | 生産量 | 20,342 | 17,116 | 16,982 | ▲ 3.1 | |
| | 輸入量 | 1,566 | 2,349 | 2,343 | 1.7 | |
| | 消費量 | 17,331 | 17,446 | 16,919 | 1.6 | |
| | 輸出量 | 4,270 | 2,391 | 1,864 | ▲ 6.8 | |
| | 期末在庫量 | 1,645 | 1,274 | 1,816 | ▲ 4.7 | |
| | 期末在庫率 | 7.6 | 6.4 | 9.7 | 9.1 | 0.5ポイント減 |

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, September 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

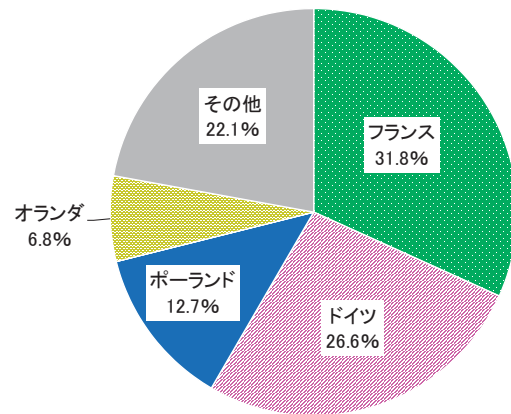
(参考) EU砂糖生産見通しおよび国別の生産割合 (2020年9月時点)

EUの砂糖生産見通し



資料：欧州委員会
注1：精製糖換算。
注2：2019/20年度は予測値。

国別の生産割合



資料：欧州委員会
注：2019/20年度の予測値に基づく割合。

5. 日本の主要輸入先国の動向 (2020年9月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しゃ糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しゃ糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、豪州、タイ、南アフリカ、フィリピンで、2019年の主要輸入先国ごとの割合を見ると、豪州が81.4%（前年比10.2ポイント増）、タイが18.6%（同9.5ポイント減）となっており、2カ国でほとんどを占めている（財務省「貿易統計」）。

以上により、この2カ国の動向については毎月報告し、南アフリカおよびフィリピンの動向についてはそれぞれ半年に1回の頻度で報告する（南アフリカは3月号および10月号、フィリピンは4月号および9月号を予定）。

本稿中の為替レートは2020年8月末日TTS相場の値であり、1タイバーツ=3.47円である。

豪州

2020/21年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：36万ha（前年度比1.0%減）
生産量：3079万トン（同2.5%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：432万トン（同0.9%増）
輸出量：336万トン（同9.3%減）

2020/21年度、砂糖生産量はわずかに増加する見込み

2020/21年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、36万ヘクタール（前年度比1.0%減）とわずかに減少すると見込まれる（表6）。サトウキビ生産量は、記録的な干ばつに見舞われた2019年ほど極端な天候にはならないとの前提の下、3079万トン（同2.5%増）とわずかに増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、前年度の減産からの反動が押し上げ要因となり、432万トン（同0.9%増）とわずかに増加すると見込まれる。輸出促進が消費量の落ち込みをある程度補うと予測されるものの、輸出量は336万トン（同9.3%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。

ニューサウスウェールズ州北部の農家は、ツマジロクサヨトウに警戒

ニューサウスウェールズ(NSW)州北部の農家は、ツマジロクサヨトウの兆候に注意し、同州の北西部土地局と第一次産業省(DPI)主催のツマジロクサヨトウに関するウェブセミナーに参加するよう求められている。

ツマジロクサヨトウは、2020年1月に発見され、幼虫はトウモロコシ、ソルガム、豆類、穀物、サトウキビ、米、綿花など多くの作物を食害するため、農作物に破壊的な影響を与える可能性がある。

現在、クイーンズランド州、北部準州、西オーストラリア州の一部で定着しているほか、豪州東部の

バンダバーグまで南下していることが確認されている（図4）。ツマジロクサヨトウは風を利用して移動し、人間や植物への付着によっても拡散することからさらなる拡大が懸念されている。

豪州政府および州政府などで構成される諮問委員会は、ツマジロクサヨトウを根絶することは不可能であるとし、NSW州北西部土地局は、侵入の兆候を早期に発見することで食害などの影響を最小限に抑えようとしている。

図4 ツマジロクサヨトウの発生が確認された地区



資料：Business Queensland <<https://www.business.qld.gov.au/industries/farms-fishing-forestry/agriculture/crop-growing/fall-armyworm/detections>> (2020/9/18アクセス) を基に農畜産業振興機構作成

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

| 年度 | 2017/18 | 2018/19 | 2019/20 | 2020/21 (8月予測) | 2020/21 (9月予測) | 前年度比 (増減率) | |
|----------|---------|---------|---------|-------------------|-------------------|---------------|----------|
| 収穫面積 | 376 | 379 | 364 | 361 | 361 | ▲ 1.0 | |
| サトウキビ生産量 | 33,344 | 32,493 | 30,044 | 30,947 | 30,788 | 2.5 | |
| 砂糖 | 生産量 | 4,463 | 4,717 | 4,283 | 4,341 | 4,321 | 0.9 |
| | 輸入量 | 27 | 18 | 20 | 58 | 58 | 2.9倍 |
| | 消費量 | 1,019 | 1,050 | 1,052 | 1,036 | 1,036 | ▲ 1.6 |
| | 輸出量 | 3,590 | 3,562 | 3,706 | 3,362 | 3,362 | ▲ 9.3 |
| | 期末在庫量 | 849 | 972 | 517 | 518 | 498 | ▲ 3.6 |
| | 期末在庫率 | 18.4 | 21.1 | 10.9 | 11.8 | 11.3 | 0.5ポイント増 |

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, September 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2020/21年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：130万ha（前年度比20.0%減）

生産量：6500万トン（同13.2%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：766万トン（同13.0%減）

輸出量：463万トン（同43.1%減）

2020/21年度の輸出量は、大幅に減少する見込み

2020/21年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、今期作の作付け時点で、キャッサバなどの転作作物の収益性がサトウキビよりも高かったことから、転作作物がより作付けされたことにより130万ヘクタール（前年度比20.0%減）と大幅に減少すると見込まれている（表7）。干ばつの影響を受けて、サトウキビ生産量は6500万トン（同13.2%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。

サトウキビ生産の落ち込みにより、砂糖生産量は766万トン（同13.0%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。砂糖の減産に伴い輸出余力が低下し、輸出量は463万トン（同43.1%減）と大幅に減少すると見込まれる。

サトウキビの焼き畑収穫比率の引き上げを要請

8月19日付けの現地報道によると、タイ製糖協会（TSMC）は、2020/21年度の砂糖生産について、焼き畑で収穫したサトウキビの比率を最大40%ま

で認めるよう要請した。

サトウキビ・砂糖委員会事務局（OCSB）^(注)は2020/21年度の焼き畑でのサトウキビの収穫比率を50%から20%まで引き下げる目標を打ち出している。しかし、収穫作業を担う周辺国からの季節労働者は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）により入国が困難になっている。

また、TSMCによると、焼き畑を抑制するためにハーベスタを普及させる必要があるが、ハーベスタ1台の平均価格は1000万バーツ（3470万円）を超えることから、現状、普及が進んでいない。収穫作業の機械化を促進するためには、焼き畑で収穫したサトウキビとの価格差を1トンにつき200～300バーツ（694円～1041円）まで広げること、農地の区画整理・大規模化を進めることなどが必要とされている。

なお、焼き畑により収穫されたサトウキビは1トンにつき30バーツ（104円）が徴収され、OCSBを通じてサトウキビ農家に補助金として還元されている。

(注) サトウキビおよび砂糖関連政策の執行機関である3省（工業省〈製糖関係〉、農業協同組合省〈原料作物関係〉、商務省〈砂糖の売買関係〉）とサトウキビ

生産者および製糖企業の代表で構成され、工業省内に設置された、サトウキビ・砂糖委員会（TCSB）の事務局。

表7 タイの砂糖需給の推移

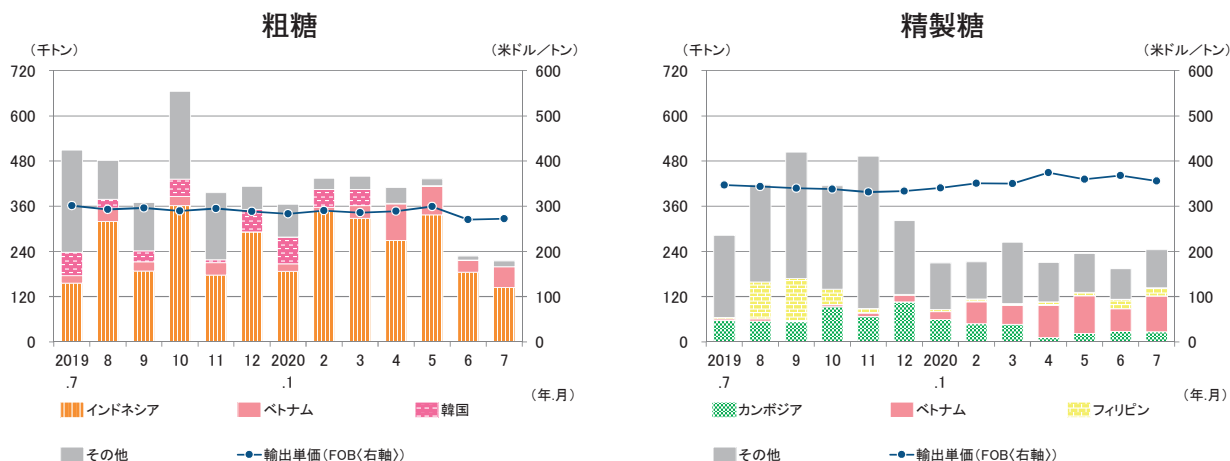
(単位：千ha、千トン、%)

| 年度 | 2017/18 | 2018/19 | 2019/20 | 2020/21 (9月予測) | 前年度比 (増減率) | |
|----------|---------|---------|---------|-------------------|---------------|-----------|
| 収穫面積 | 1,790 | 1,913 | 1,626 | 1,301 | ▲ 20.0 | |
| サトウキビ生産量 | 134,929 | 130,970 | 74,893 | 65,000 | ▲ 13.2 | |
| 砂糖 | 生産量 | 15,586 | 15,457 | 8,807 | 7,661 | ▲ 13.0 |
| | 輸入量 | 5 | 3 | 33 | 14 | ▲ 57.6 |
| | 消費量 | 3,434 | 3,737 | 3,557 | 3,646 | 2.5 |
| | 輸出量 | 9,820 | 10,113 | 8,130 | 4,628 | ▲ 43.1 |
| | 期末在庫量 | 6,289 | 7,899 | 5,052 | 4,454 | ▲ 11.8 |
| | 期末在庫率 | 47.4 | 57.0 | 43.2 | 53.8 | 10.6ポイント増 |

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, September 2020」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3カ国を表示。

南アフリカ

2020/21年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：25万ha（前年度同）

生産量：1943万トン（前年度比1.0%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：232万トン（同0.8%増）

輸出量：103万トン（同29.6%減）

2020/21年度、生産量はわずかに増加し、輸出量は大幅に減少する見込み

2020/21年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、25万ヘクタール（前年度同）と横ばい

で推移すると見込まれる（表8）。また天候はおおむね良好であるため、サトウキビ生産量は1943万トン（前年度比1.0%増）とわずかに増加すると見込まれる。しかし、前年度と比べて糖度が低いため、

砂糖生産量は232万トン（同0.8%増）とわずかな増加になると見込まれる。輸入量は、55万トン（同28.8%増）と大幅に増加すると見込まれる。輸出

量は、103万トン（同29.6%減）と大幅に減少すると見込まれる。

表8 南アフリカの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

| 年度 | 2017/18 | 2018/19 | 2019/20 | 2020/21 (9月予測) | 前年度比 (増減率) | |
|----------|---------|---------|---------|-------------------|---------------|----------|
| 収穫面積 | 275 | 247 | 250 | 250 | 0.0 | |
| サトウキビ生産量 | 17,388 | 19,032 | 19,238 | 19,431 | 1.0 | |
| 砂糖 | 生産量 | 2,158 | 2,348 | 2,300 | 2,319 | 0.8 |
| | 輸入量 | 1,006 | 670 | 425 | 547 | 28.8 |
| | 消費量 | 2,161 | 1,956 | 1,979 | 1,930 | ▲ 2.5 |
| | 輸出量 | 773 | 1,048 | 1,459 | 1,027 | ▲ 29.6 |
| | 期末在庫量 | 865 | 880 | 167 | 76 | ▲ 54.6 |
| | 期末在庫率 | 29.5 | 29.3 | 4.8 | 2.6 | 2.3ポイント減 |

資料：LMC International [Monthly Sugar Information in Major Countries, September 2020]

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。